

## 2026年4月の地震活動の評価

### 1. 主な地震活動

- 4月1日に茨城県南部でマグニチュード(M) 5.0の地震が発生し、栃木県で最大震度5弱を観測した。
- 4月18日に長野県北部でM5.0の地震が発生し、長野県で最大震度5強を観測した。また、同日にM5.1の地震が発生し、最大震度5弱を観測した。これらの地震により、住家一部破損などの被害を生じた。
- 4月20日に三陸沖でM7.7の地震が発生し、岩手県の久慈港(港湾局)で79 cm、北海道の浦河(港湾局)で39 cm(いずれも暫定値)の津波を観測した。この地震により、青森県で最大震度5強を観測し、負傷者が出るなど被害を生じた。また、秋田県内陸南部、宮城県北部で長周期地震動階級3を観測した。
- 4月27日に十勝地方南部でM6.2の地震が発生した。この地震により北海道で最大震度5強を観測し、負傷者が出るなど被害を生じた。

### 2. 各領域別の地震活動

#### (1) 北海道地方

- 4月27日に十勝地方南部の深さ約85 kmでM6.2の地震が発生した。この地震の発震機構は北北東-南南西方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。  
G N S S観測によると、今回の地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。

#### (2) 東北地方

- 4月20日に三陸沖で発生したM7.7の地震については、「2026年4月20日三陸沖の地震の評価」を参照。

#### (3) 関東・中部地方

- 4月1日に茨城県南部の深さ約50 kmでM5.0の地震が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。  
G N S S観測によると、今回の地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。
- 4月18日13時20分、14時54分に長野県北部の深さ約10 kmでそれぞれM5.0、M5.1の地震が発生した。これらの地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した地震である。4月18日以降、4月中に震度1以上を観測した地震が37回発生するなど、地震活動は継続している。  
この地震活動域周辺には、糸魚川-静岡構造線断層帯が存在している。  
G N S S観測によると、今回の地震に伴い、ごくわずかな地殻変動が観測された。

(4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

(5) 九州・沖縄地方

目立った活動はなかった。

(6) 南海トラフ周辺

- 南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

\*：海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「Xランク」と表記している。

## 2026年4月の地震活動の評価についての補足説明

令和8年5月14日  
地震調査委員会

### 1. 主な地震活動について

2026年4月の日本及びその周辺域におけるマグニチュード（M）別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上及びM5.0以上の地震の発生は、それぞれ132回（3月は155回）及び25回（3月は25回）であった。また、M6.0以上の地震の発生は2回（3月は4回）であった。

- （参考） M4.0以上の月回数 81回（69-104回）  
（1998-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）  
M5.0以上の月回数 10回（7-14回）  
（1973-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）  
M6.0以上の月回数 1回（0-2回）  
（1919-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）  
M6.0以上の年回数 16回（12-21回）  
（1919-2017年の年回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）

2025年4月以降2026年3月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあった。

— 長野県北部	2025年4月18日	M5.1（深さ約15 km）
— トカラ列島近海	2025年6月30日	M5.3
— トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.1
— トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.6
— トカラ列島近海	2025年7月3日	M5.5（深さ約10 km）
— トカラ列島近海	2025年7月5日	M5.4
— トカラ列島近海	2025年7月6日	M4.9
— トカラ列島近海	2025年7月6日	M5.5
— トカラ列島近海	2025年7月7日	M5.1
— ロシア、カムチャツカ半島東方沖	2025年7月30日	M8.8
— トカラ列島近海	2025年9月17日	M4.7
— 根室半島南東沖	2025年10月25日	M5.8（深さ約40 km）
— 三陸沖	2025年11月9日	M6.9（深さ約15 km）
— 熊本県阿蘇地方	2025年11月25日	M5.8（深さ約10 km）
— 青森県東方沖	2025年12月8日	M7.5（深さ約55 km）
— 島根県東部	2026年1月6日	M6.4（深さ約10 km）

### 2. 各領域別の地震活動

#### （1）北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

#### （2）東北地方

東北地方では特に補足する事項ない。

### (3) 関東・中部地方

ー GNS S観測によると、2022年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されている。これは、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。すべりの中心は渥美半島周辺から浜名湖周辺に移動している。

### (4) 近畿・中国・四国地方

近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

### (5) 九州・沖縄地方

ー GNS S観測によると、2月26日から宮古島北西沖で活発となった地震活動に伴い観測されていた地殻変動は、3月中旬以降、停滞している。

### (6) 南海トラフ周辺

ー「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。」：

(なお、これは、5月12日に開催された定例の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会における見解(参考参照)と同様である。)

(参考) 南海トラフ地震関連解説情報についてー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー(令和8年5月12日気象庁地震火山部)

「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が高い(詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)」参照)と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

#### 1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 四国西部：4月6日から4月10日
- (2) 四国西部：5月2日から継続中

#### 2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しています。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。

GNS S観測によると、2022年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

(長期的な地殻変動)

GNS S観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

### 3. 地殻活動の評価

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2022年初頭からの静岡県西部から愛知県東部にかけての地殻変動は、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。この長期的ゆっくりすべりは、すべりの中心が渥美半島周辺から、浜名湖周辺に移動しています。

これらの深部低周波地震(微動)、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

(長期的な地殻変動)

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」

参考1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安

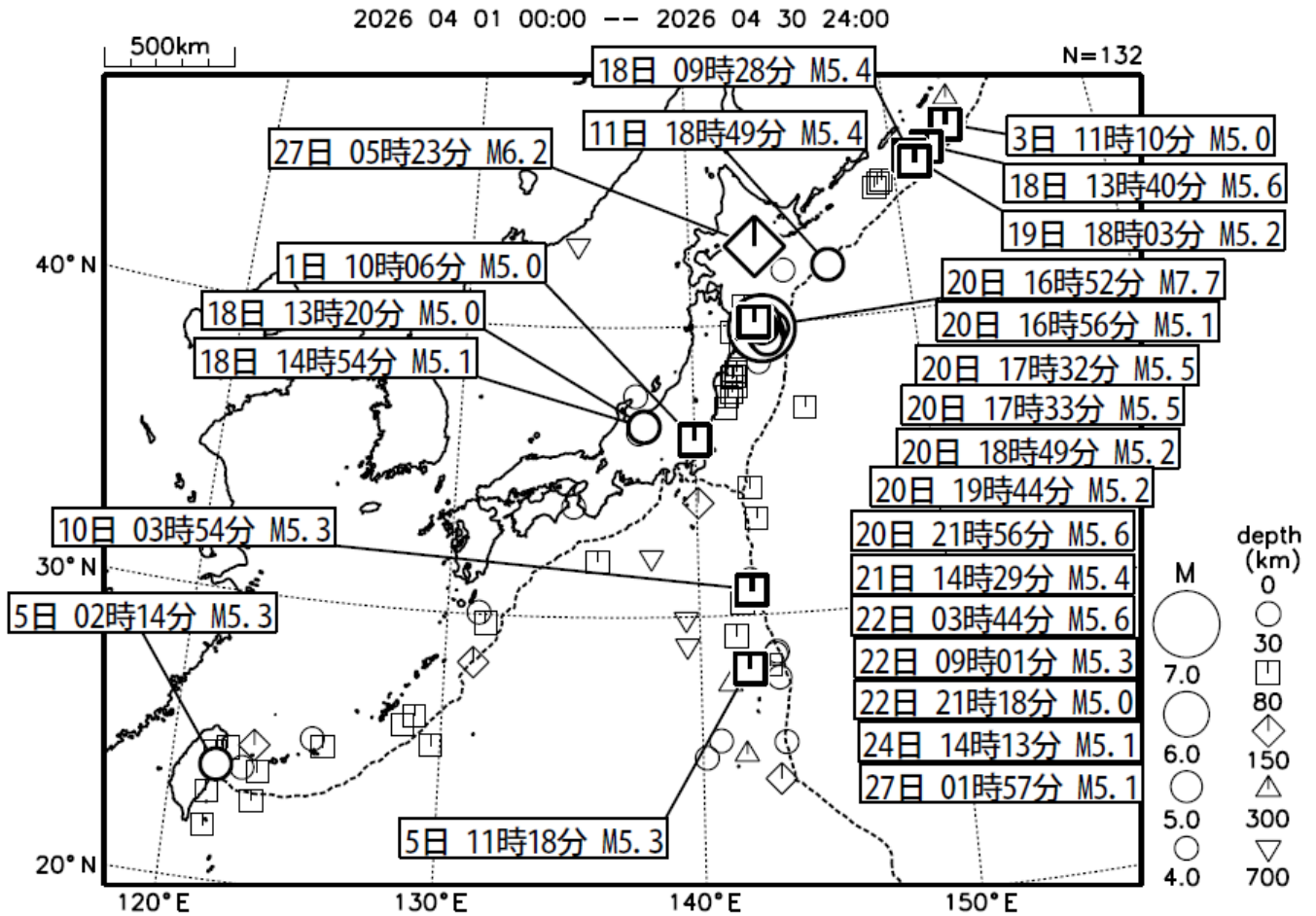
- ①M6.0以上または最大震度が4以上のもの。
- ②内陸M4.5以上かつ最大震度が3以上のもの。
- ③海域M5.0以上かつ最大震度が3以上のもの。

参考2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安

- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
- 2 「主な地震活動」として記述された地震活動(一年程度以内)に関連する活動。
- 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。
- 4 一連でM6.0以上が推定されたゆっくりすべりとそれに伴って発生した低周波地震(微動)。

# 2026年4月の地震活動の評価に関する資料

## 2026年4月の全国の地震活動 (マグニチュード4.0以上)



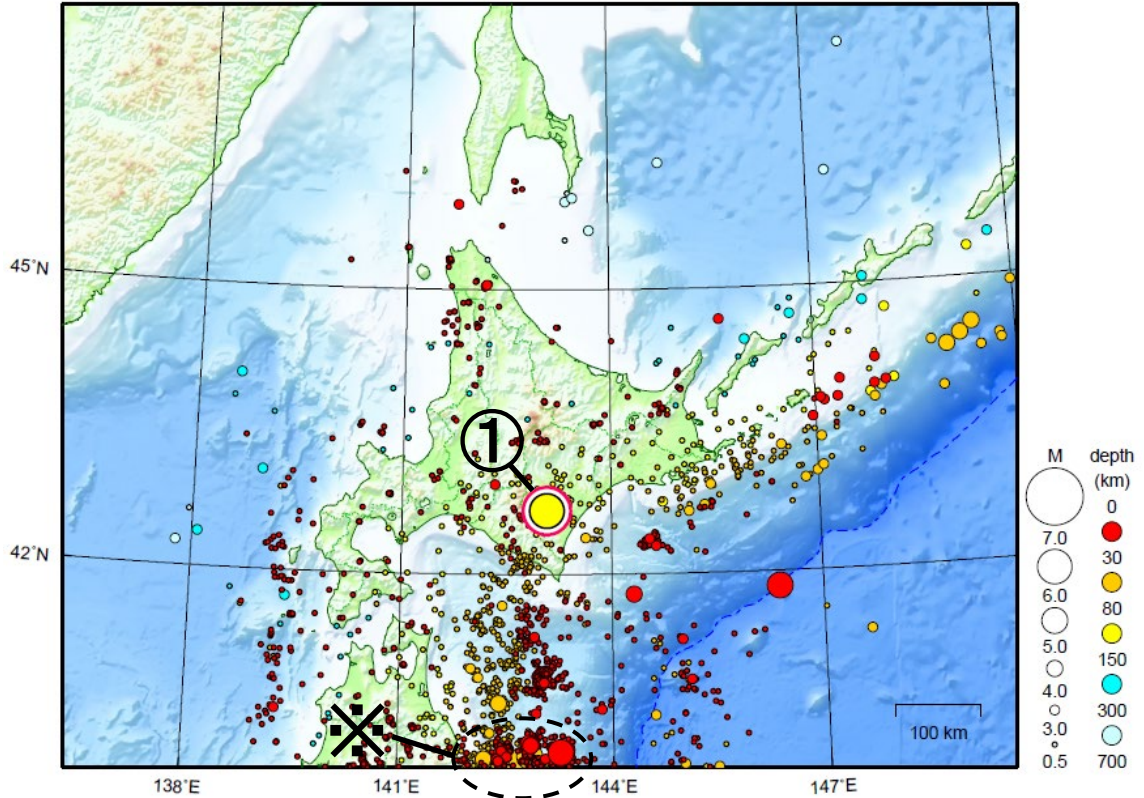
- ・ 4月1日10時06分に茨城県南部でM5.0の地震（最大震度5弱）が発生した。
- ・ 4月18日13時20分に長野県北部でM5.0の地震（最大震度5強）が発生した。
- ・ 4月18日14時54分に長野県北部でM5.1の地震（最大震度5弱）が発生した。
- ・ 4月20日16時52分に三陸沖でM7.7の地震（最大震度5強）が発生した。
- ・ 4月27日05時23分に十勝地方南部でM6.2の地震（最大震度5強）が発生した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

# 北海道地方

2026/04/01 00:00 ~ 2026/04/30 24:00

N=2725



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

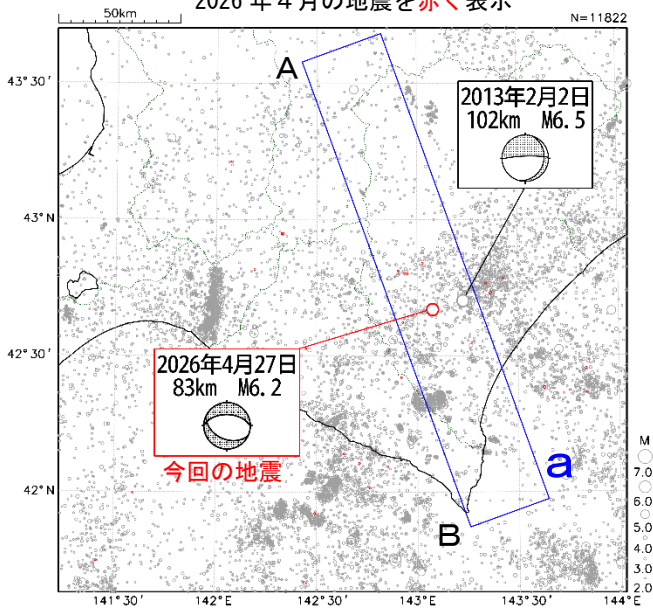
① 4月27日に十勝地方南部で M6.2 の地震(最大震度 5 強)が発生した。

※で示した地震については東北地方の資料を参照。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

# 4月27日 十勝地方南部の地震

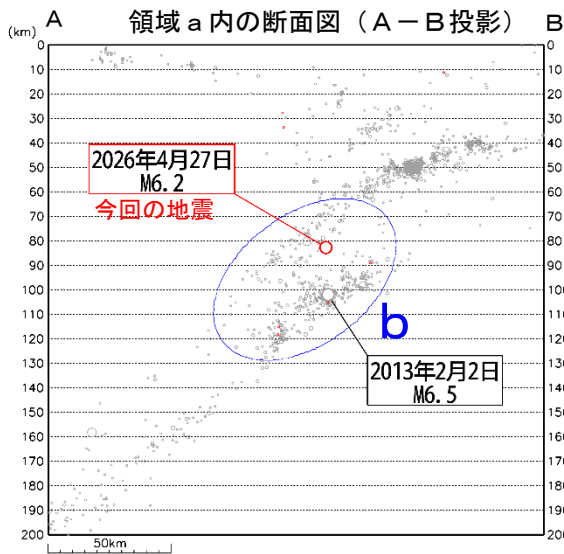
震央分布図  
(2001年10月1日～2026年4月30日、  
深さ0～200km、M $\geq$ 2.0)  
2026年4月の地震を赤く表示



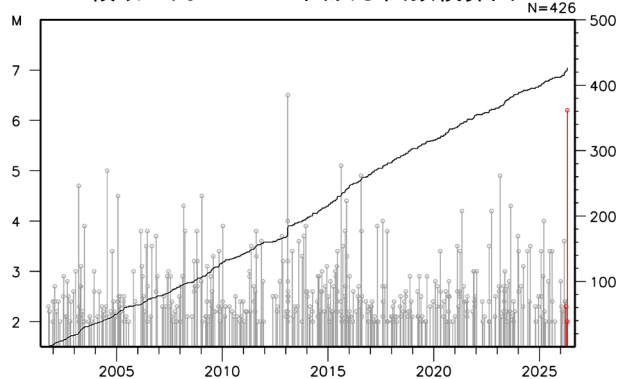
2026年4月27日05時23分に十勝地方南部の深さ83kmでM6.2の地震 (最大震度5強) が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構は北北東-南南西方向に張力軸を持つ型である。この地震により、北海道で負傷者1人の被害が生じた (2026年5月7日14時00分現在、総務省消防庁による)。

2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M5.0以上の地震が今回の地震を含めて4回発生している。2013年2月2日のM6.5の地震 (最大震度5強) では、負傷者14人、住家被害1棟の被害が生じた (総務省消防庁による)。

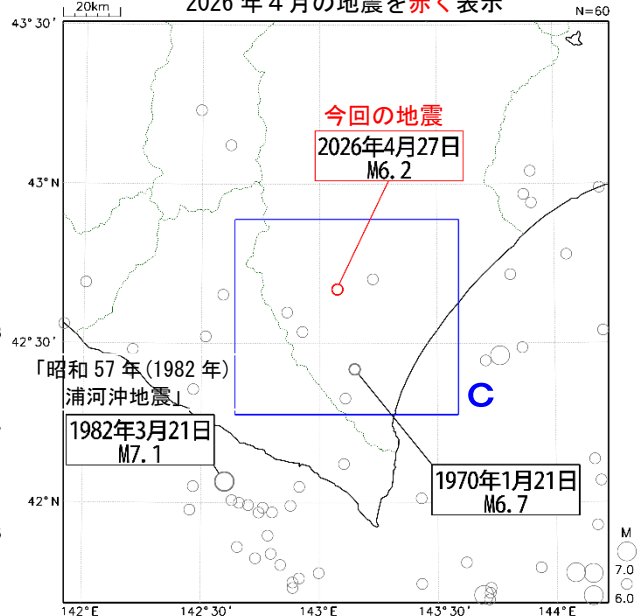
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0以上の地震が時々発生しており、1970年1月21日のM6.7の地震 (最大震度5) では、負傷者32人、住家全壊2棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。



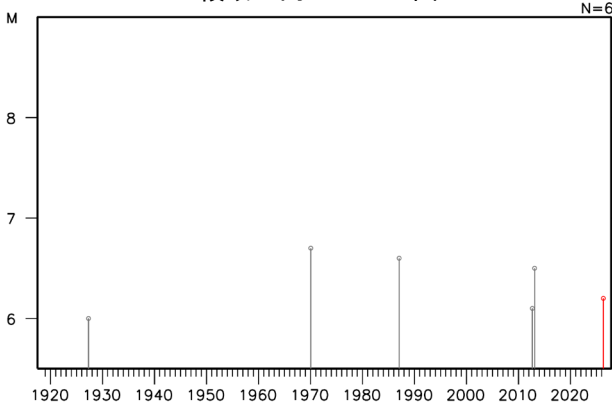
領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図  
(1919年1月1日～2026年4月30日、  
深さ0～200km、M $\geq$ 6.0)  
2026年4月の地震を赤く表示



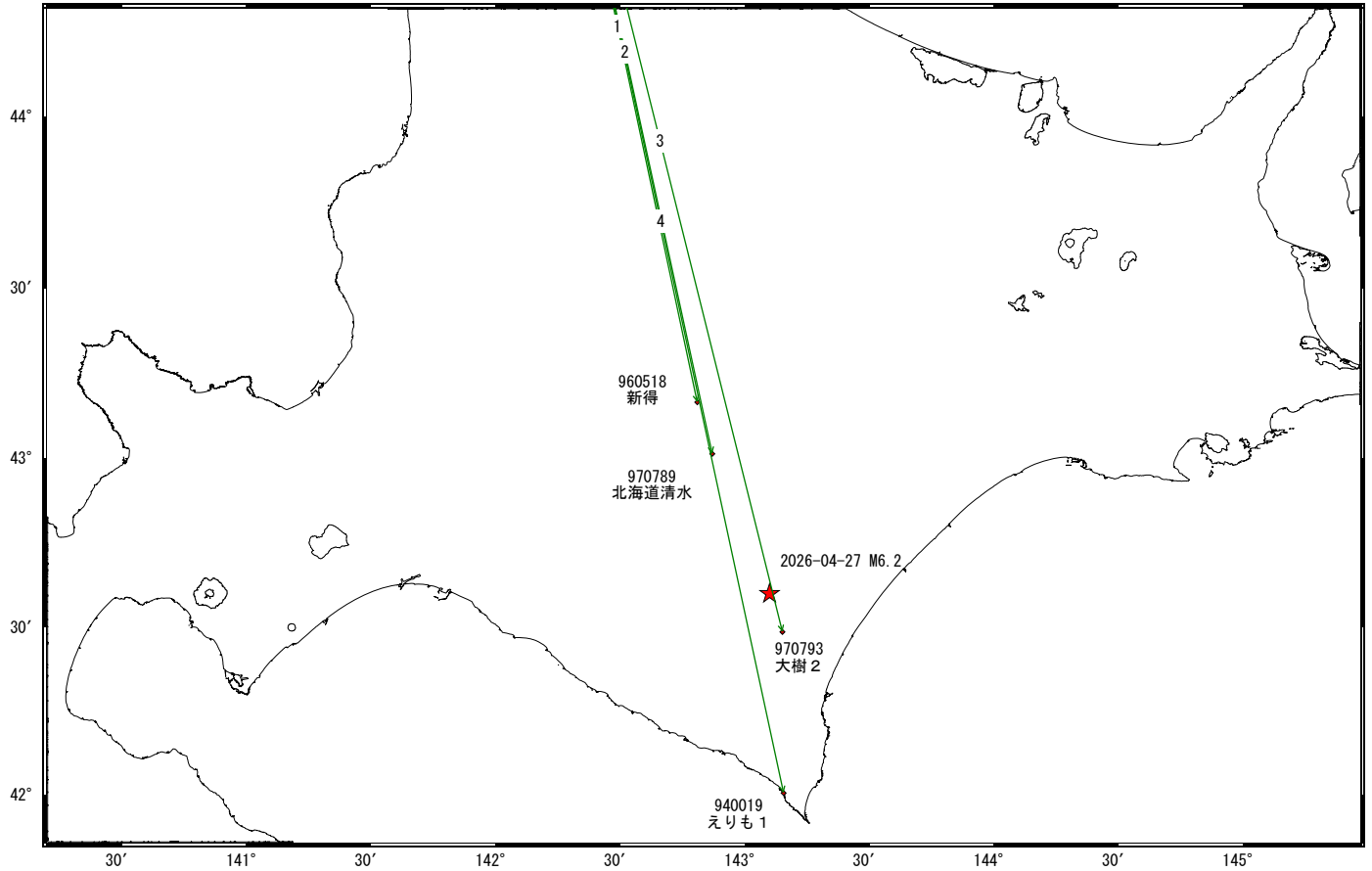
領域c内のM-T図



# 十勝地方南部の地震(4月27日 M6.2)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴う顕著な地殻変動は見られない。

## 基線図



★震央

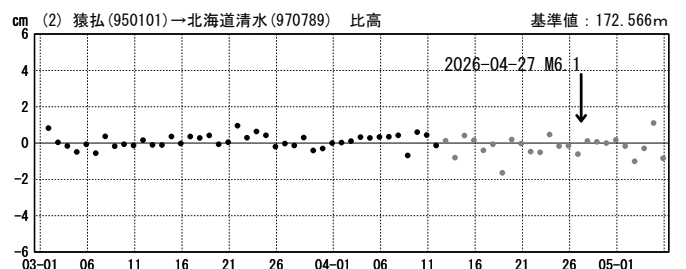
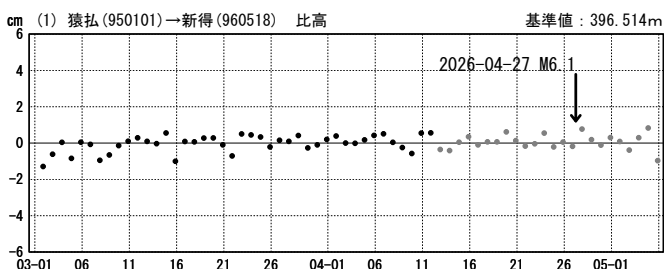
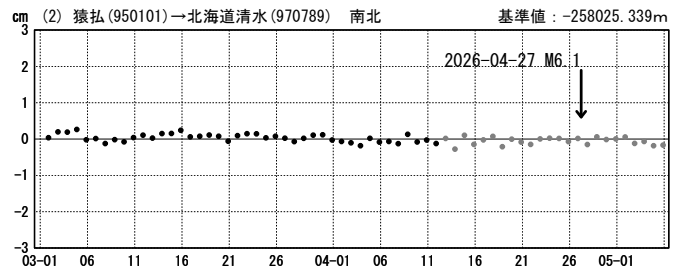
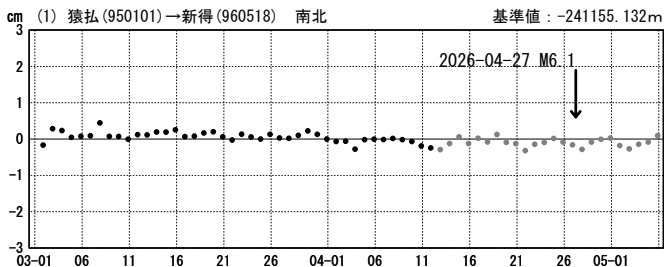
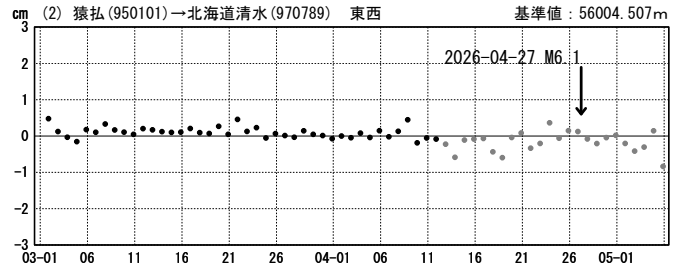
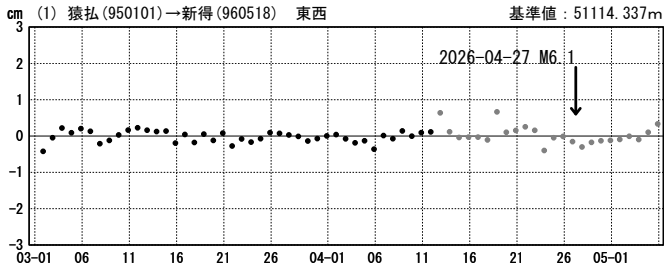
☆固定局: 猿払(950101) (北海道)

## 1次トレンド除去後グラフ

計算期間: 2023-01-01~2025-01-01

期間: 2026-03-01~2026-05-05 JST

期間: 2026-03-01~2026-05-05 JST



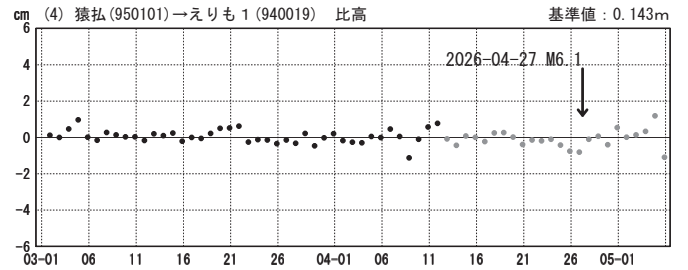
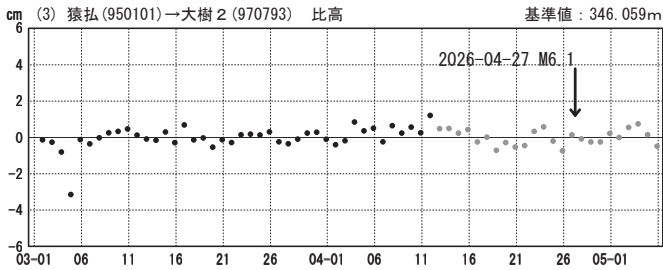
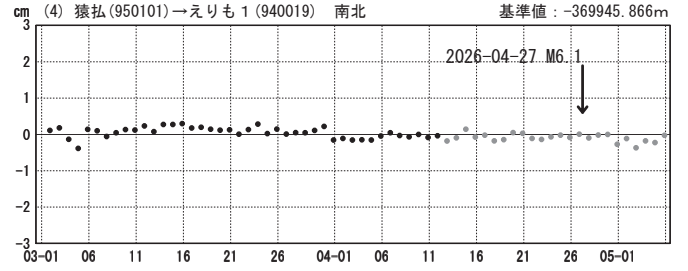
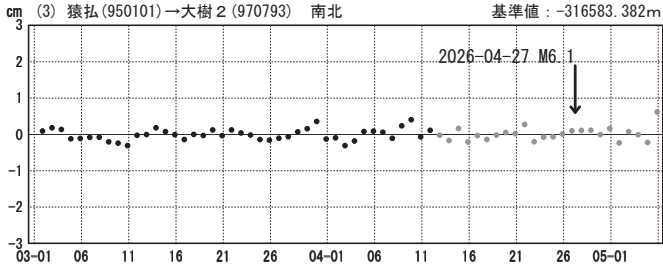
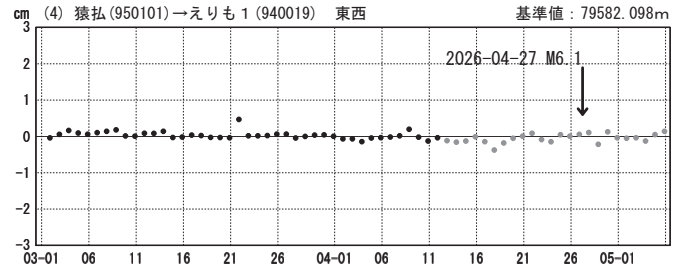
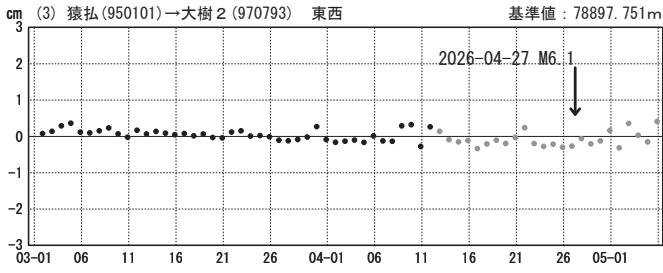
●---[F5. 1:最終解]   ●---[R5. 1:速報解]

# 1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2023-01-01~2025-01-01

期間：2026-03-01~2026-05-05 JST

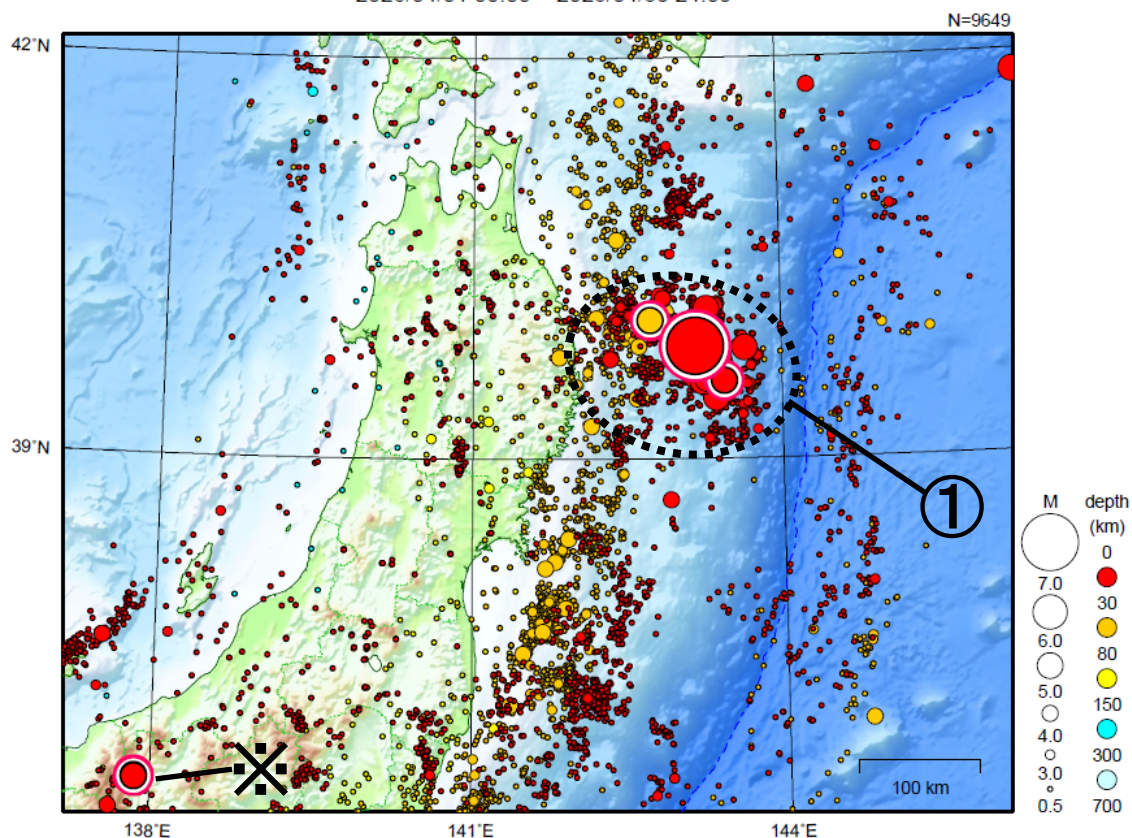
期間：2026-03-01~2026-05-05 JST



●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

# 東北地方

2026/04/01 00:00 ~ 2026/04/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 4月20日16時52分に三陸沖でM7.7の地震(最大震度5強)が発生した。この地震の震央付近では同日21時56分にM5.6の地震(最大震度3)、同月22日にM5.3の地震(最大震度3)、27日にM5.1の地震(最大震度3)が発生するなど、20日から30日までに震度1以上を観測する地震が38回(震度5強:1回、震度3:3回、震度2:7回、震度1:27回)発生した。

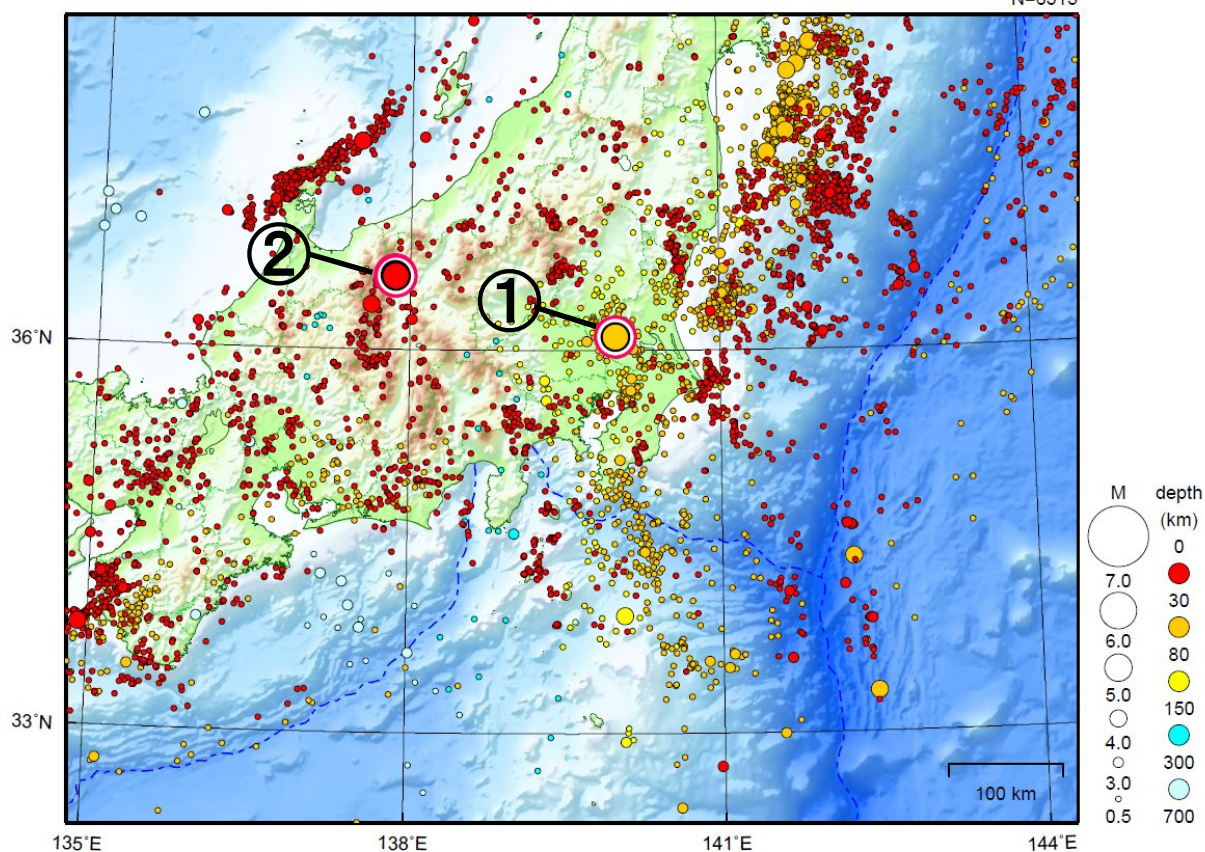
※で示した地震については関東・中部地方の資料を参照。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

# 関東・中部地方

2026/04/01 00:00 ~ 2026/04/30 24:00

N=6515



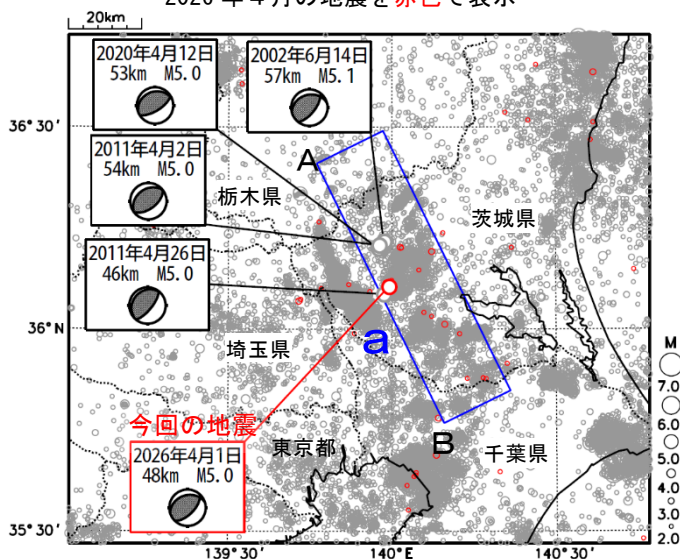
地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 4月1日に茨城県南部でM5.0の地震（最大震度5弱）が発生した。
- ② 長野県北部では4月18日13時20分にM5.0の地震（最大震度5強）、同日14時54分にM5.1の地震（最大震度5弱）が発生した。4月中に震度1以上を観測する地震が37回（震度5強：1回、震度5弱：1回、震度3：7回、震度2：6回、震度1：22回）発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

# 4月1日 茨城県南部の地震

震央分布図  
(1997年10月1日～2026年4月30日、  
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$ )  
2026年4月の地震を赤色で表示

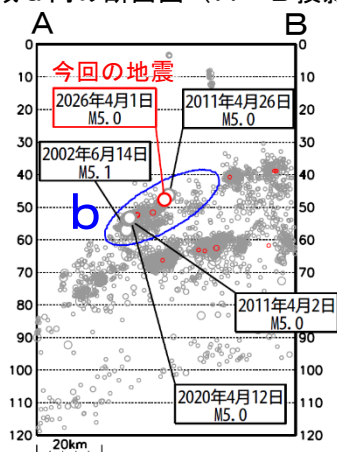


2026年4月1日10時06分に茨城県南部の深さ48kmで $M 5.0$ の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震は、発震機構が北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

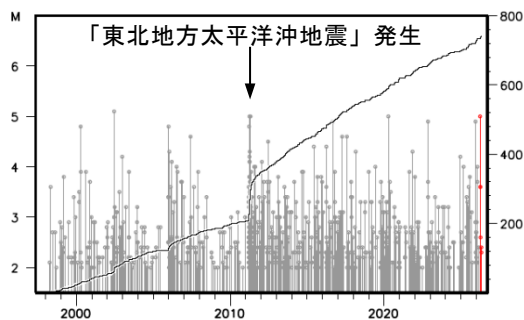
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)は $M 5$ 程度の地震が時々発生していた。2002年6月14日に $M 5.1$ の地震(最大震度4)が発生し、負傷者1人などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(以下、「東北地方太平洋沖地震」)発生以降、より活発になり $M 5.0$ 以上の地震がしばしば発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。1921年12月8日には $M 6.8$ (最大震度4)の地震が発生した。

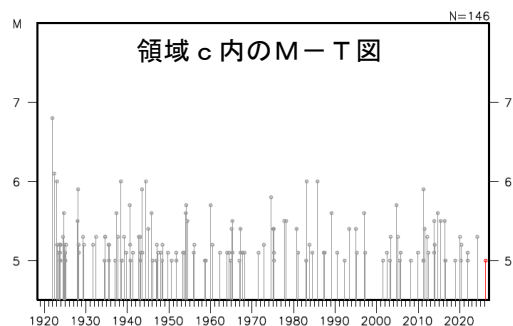
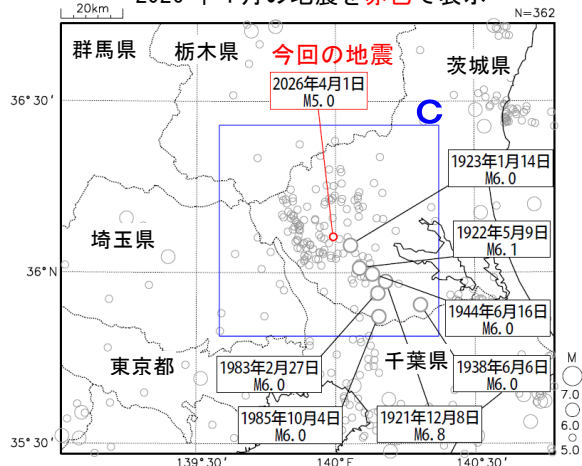
領域a内の断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図



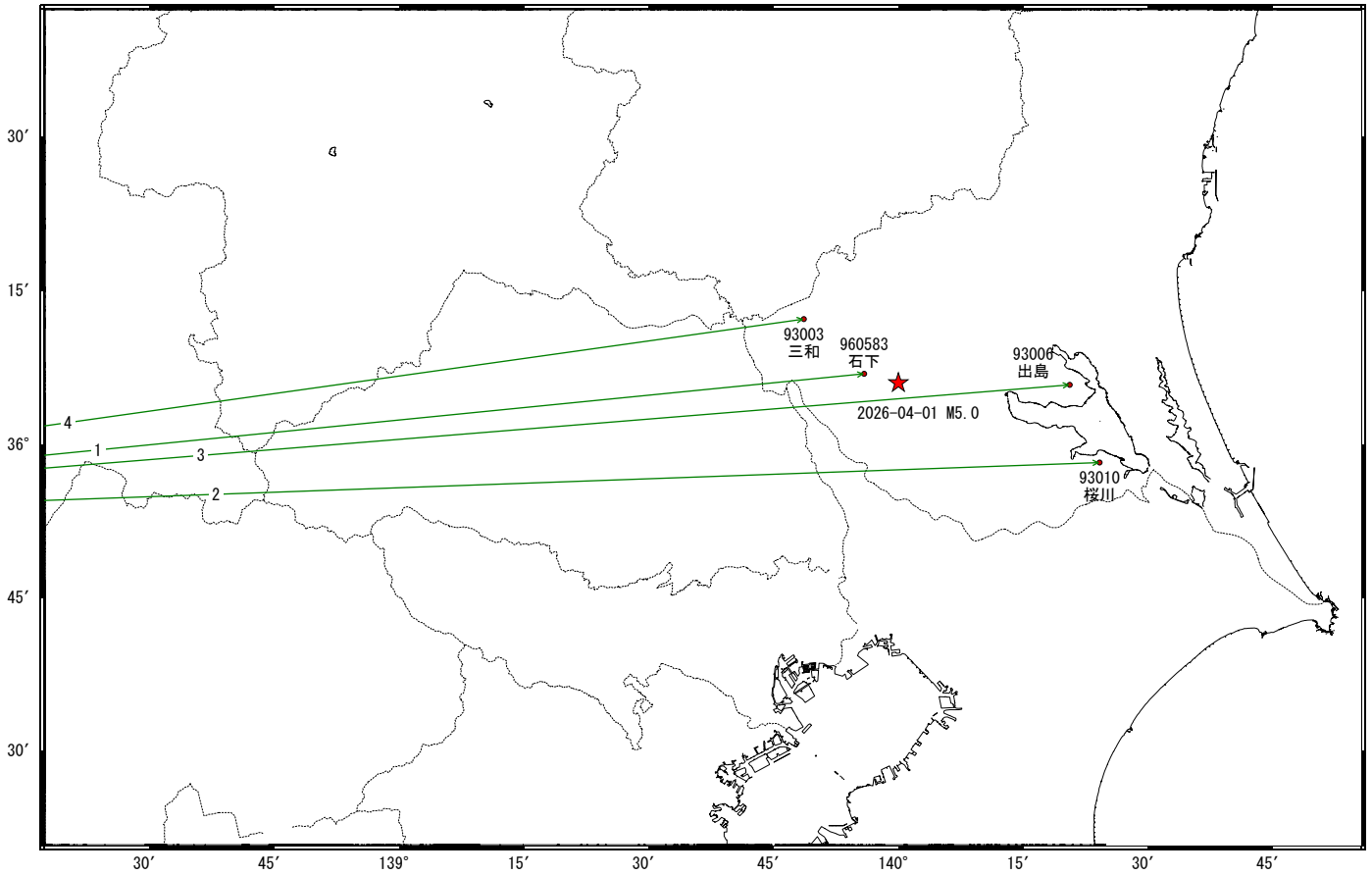
震央分布図  
(1919年1月1日～2026年4月30日、  
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$ )  
2026年4月の地震を赤色で表示



# 茨城県南部の地震(4月1日 M5.0)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴う顕著な地殻変動は見られない。

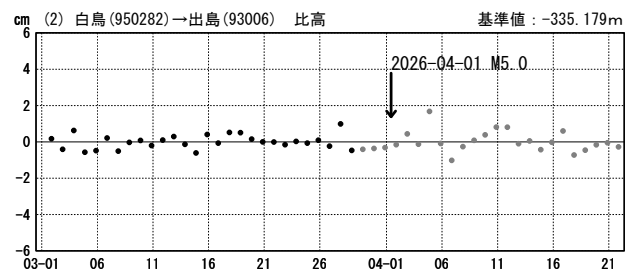
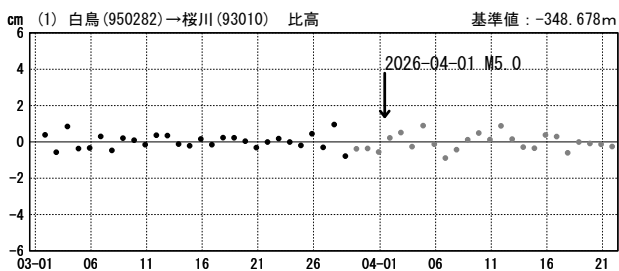
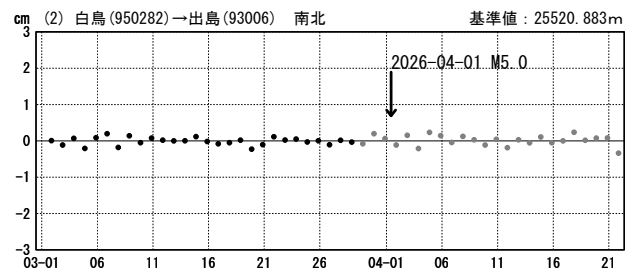
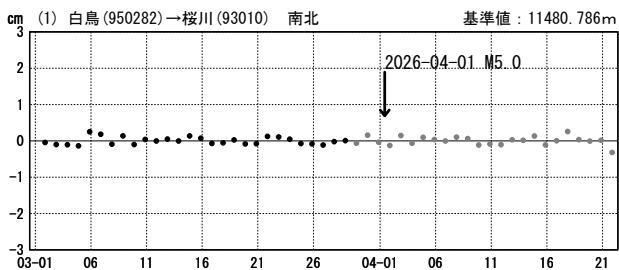
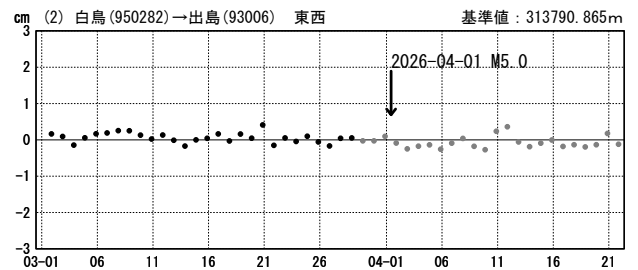
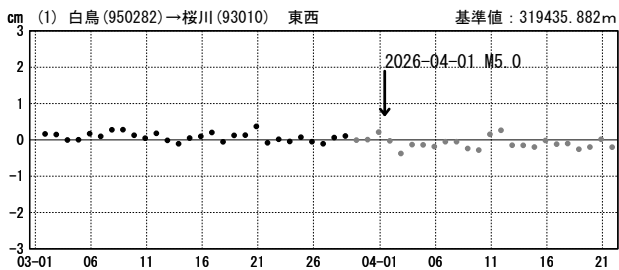
## 基線図



★震央

## 成分変化グラフ

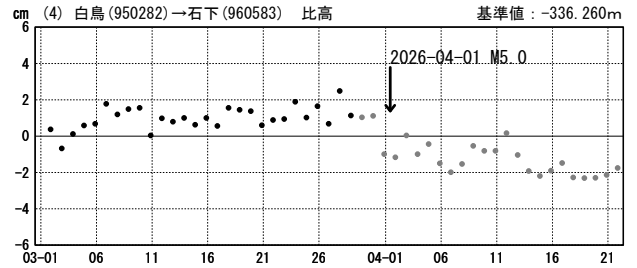
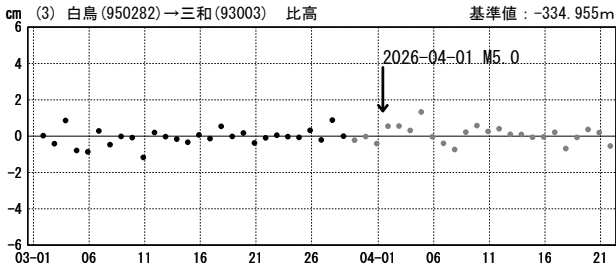
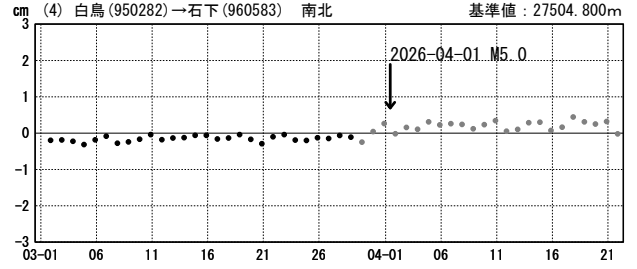
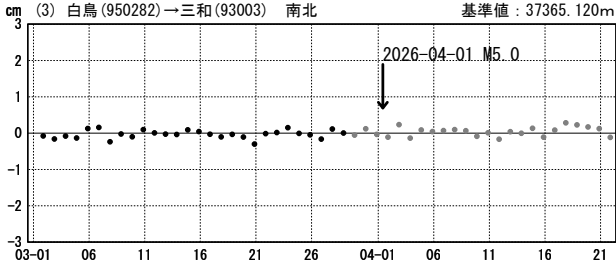
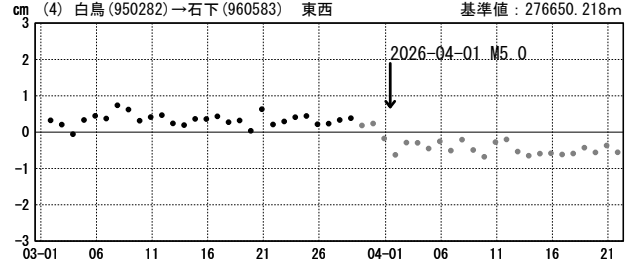
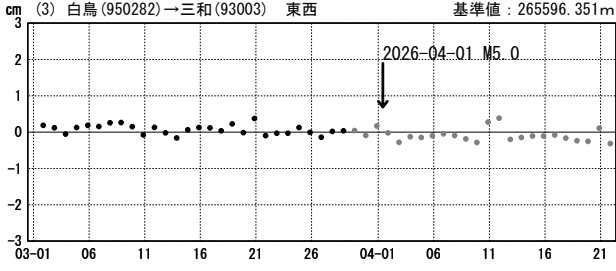
期間: 2026-03-01~2026-04-21 JST



●---[F5.1:最終解]   ●---[R5.1:速報解]

# 成分変化グラフ

期間：2026-03-01~2026-04-21 JST



※石下：地震に伴う局所的な変化があった可能性がある。

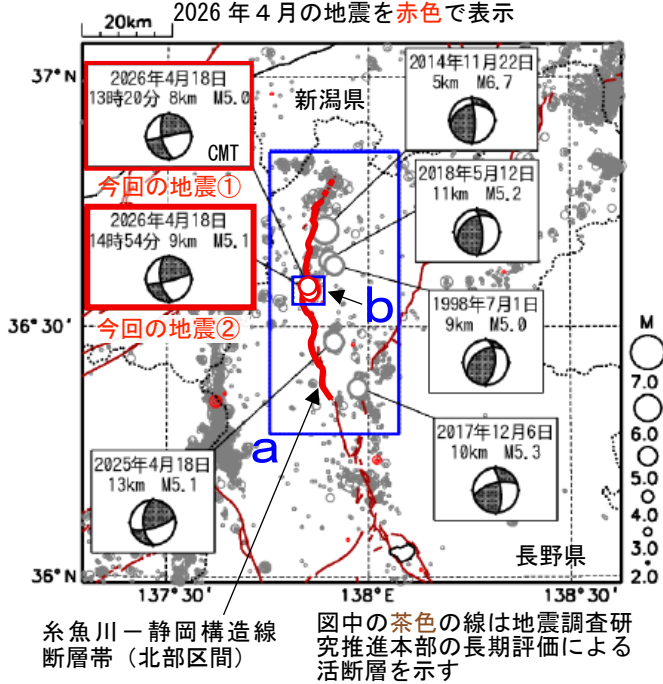
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

# 4月18日 長野県北部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2026年4月30日、  
深さ0～20km、M≥2.0)

2026年4月の地震を赤色で表示



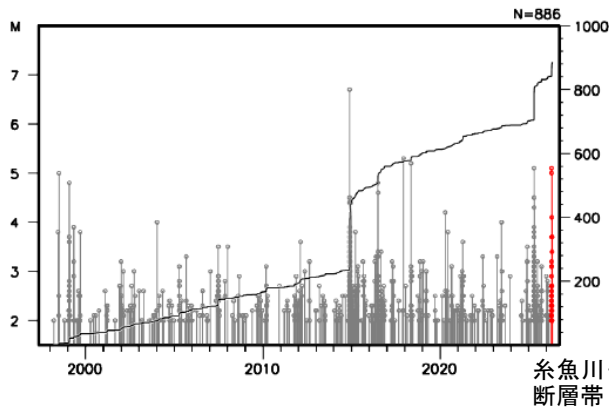
2026年4月18日13時20分に長野県北部の深さ8kmでM5.0の地震(①、最大震度5強)が発生した。また、同日14時54分にも、長野県北部の深さ9kmでM5.1の地震(②、最大震度5弱)が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。これらの地震の発震機構は、北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

今回の地震の震央付近(領域b)では、4月中に震度1以上を観測した地震が37回(震度5強:1回、震度5弱:1回、震度3:7回、震度2:6回、震度1:22回)発生した。また、これらの地震により住家一部破損104棟の被害が生じた(2026年4月27日14時00分現在、総務省消防庁による)。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域a)ではM5.0以上の地震が時々発生している。2014年11月22日にはM6.7の地震(最大震度6弱)が発生し、負傷者46人などの被害が生じた(被害は総務省消防庁による)。

1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M5.0以上の地震が時々発生している。このうち、1918年11月11日にはM6.1とM6.5の地震が発生し、家屋全倒6棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域a内のM-T図及び回数積算図

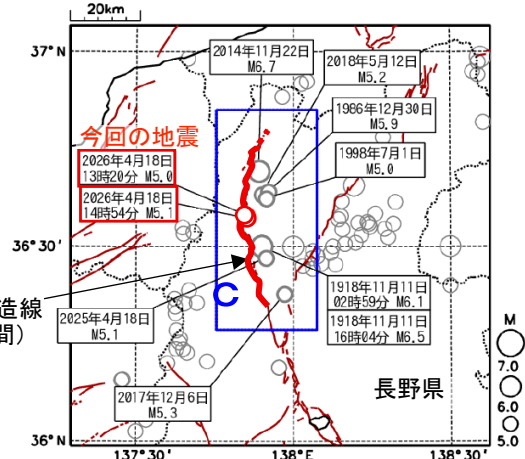


糸魚川-静岡構造線断層帯(北部区間)

震央分布図

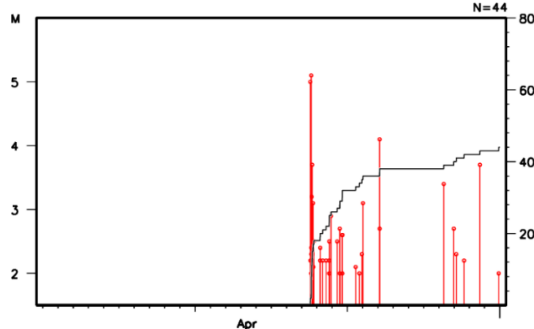
(1885年1月1日～2026年4月30日、  
深さ0～50km、M≥5.0)

2026年4月の地震を赤色で表示

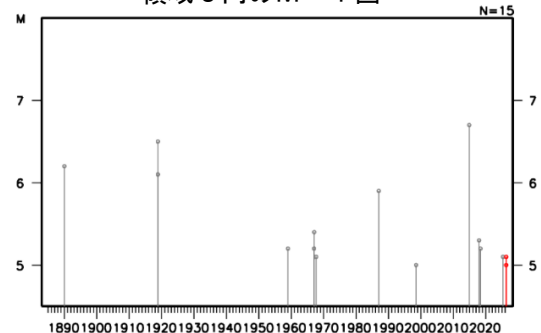


図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

領域b内のM-T図及び回数積算図  
(2026年4月1日～30日、M≥2.0)



領域c内のM-T図



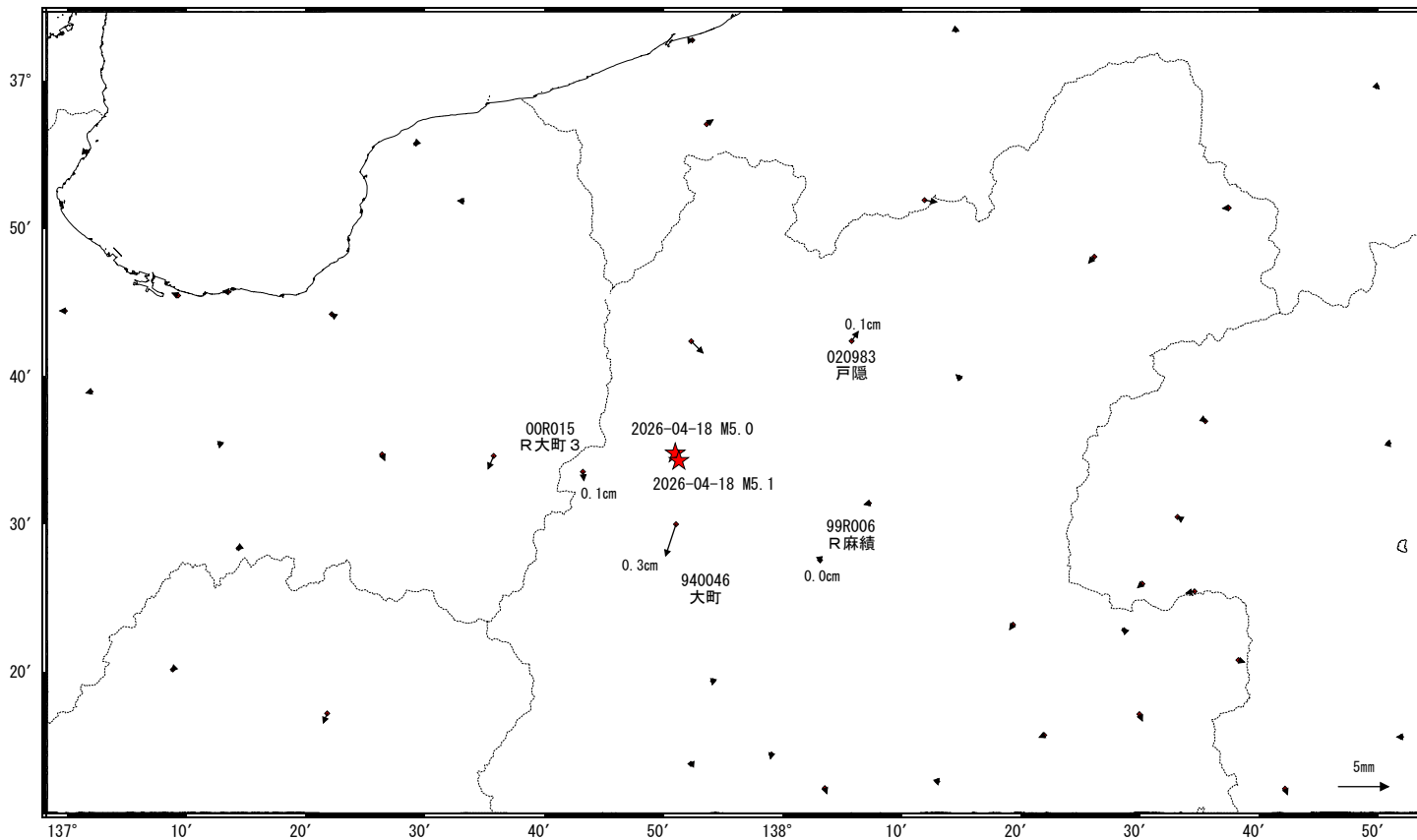
気象庁作成

# 長野県北部の地震 (4月18日 M5.0・M5.1) 前後の観測データ (暫定)

この地震に伴いごくわずかな地殻変動が観測された。

## 地殻変動(水平)

基準期間: 2026-04-11~2026-04-17 [R5.1:速報解]  
比較期間: 2026-04-19~2026-04-25 [R5.1:速報解]



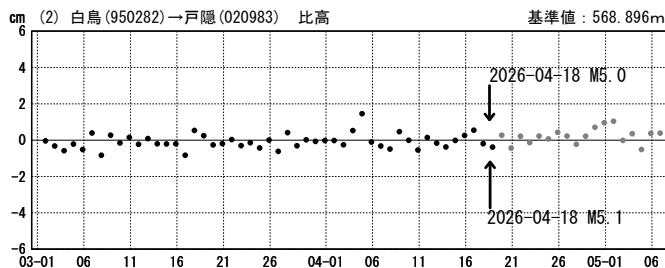
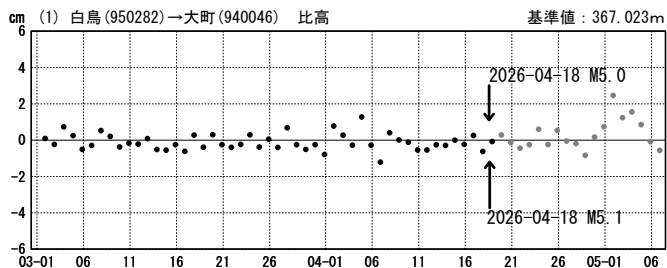
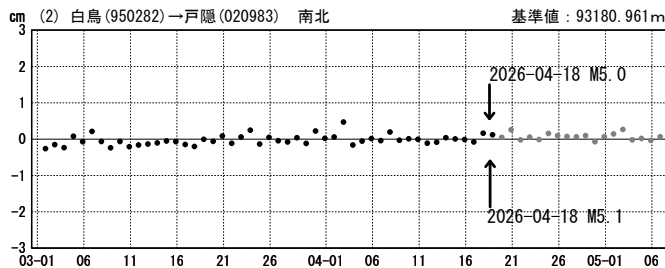
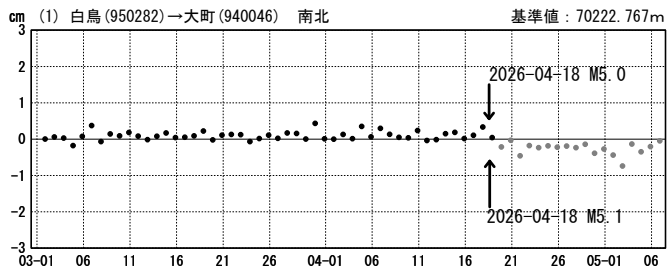
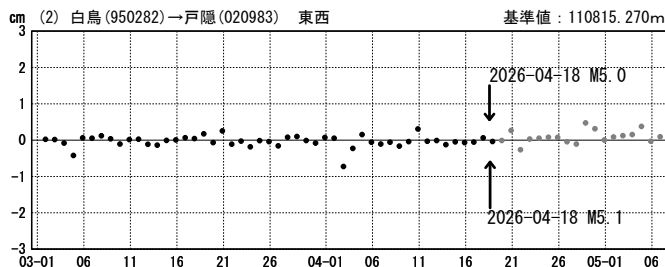
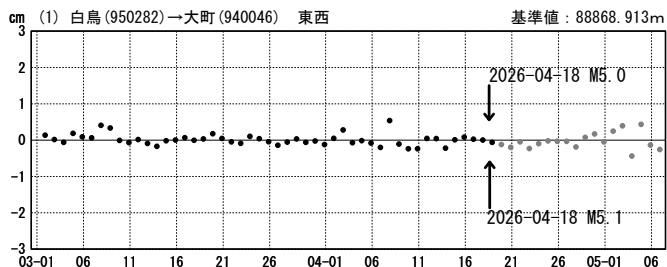
★ 震央

☆ 固定局: 白鳥 (950282) (岐阜県)

## 成分変化グラフ

期間: 2026-03-01~2026-05-06 JST

期間: 2026-03-01~2026-05-06 JST

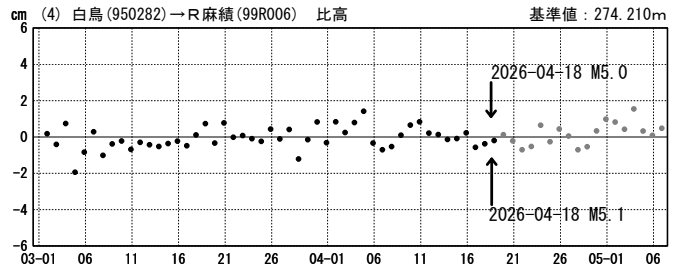
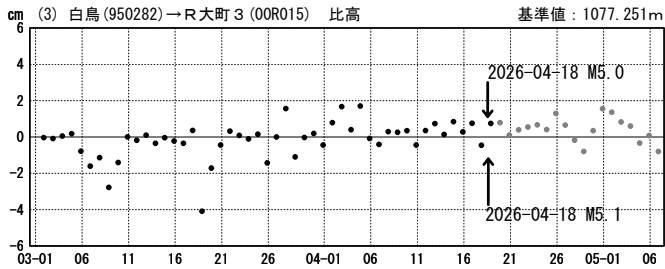
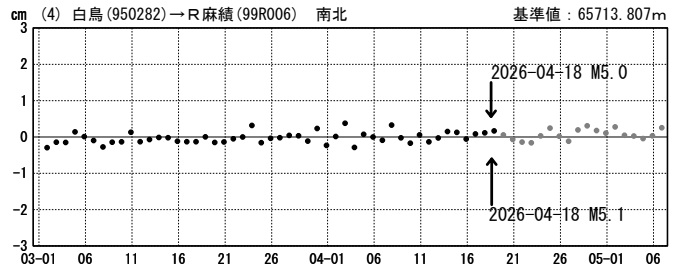
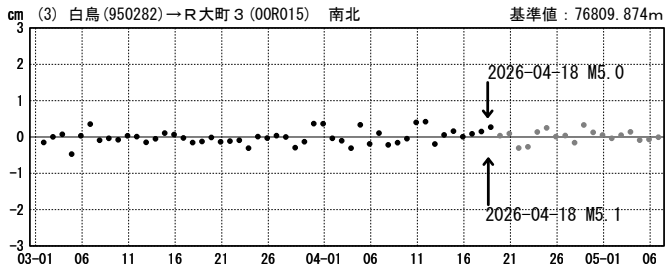
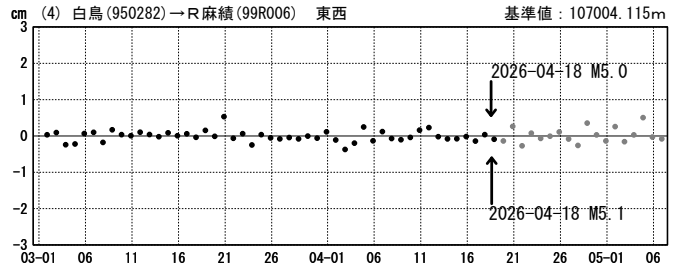
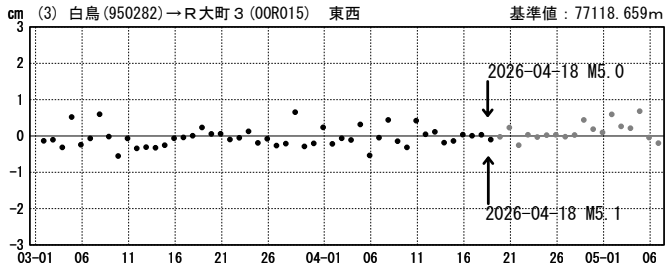


●— [F5.1:最終解]   ●— [R5.1:速報解]

# 成分変化グラフ

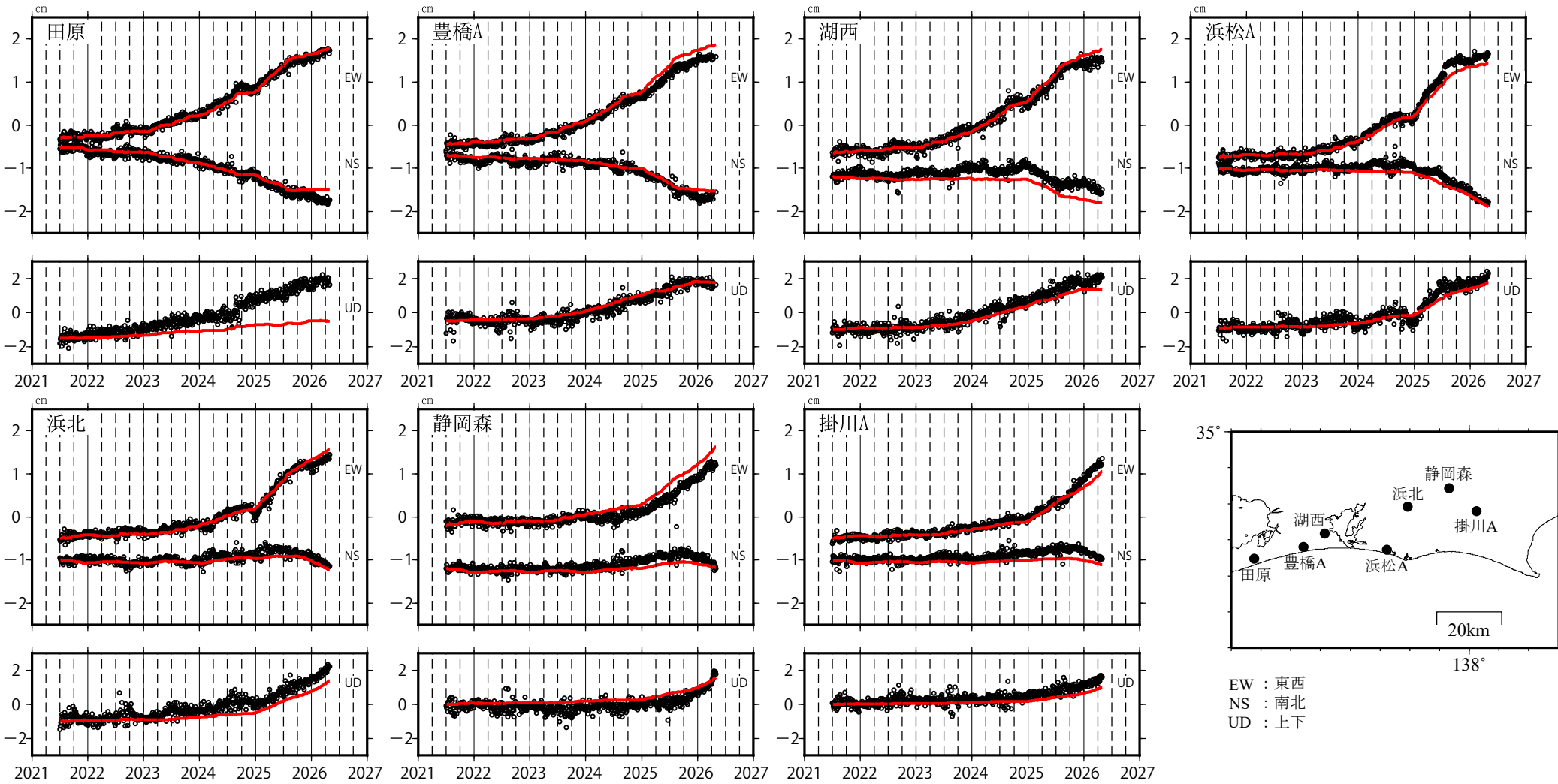
期間：2026-03-01～2026-05-06 JST

期間：2026-03-01～2026-05-06 JST



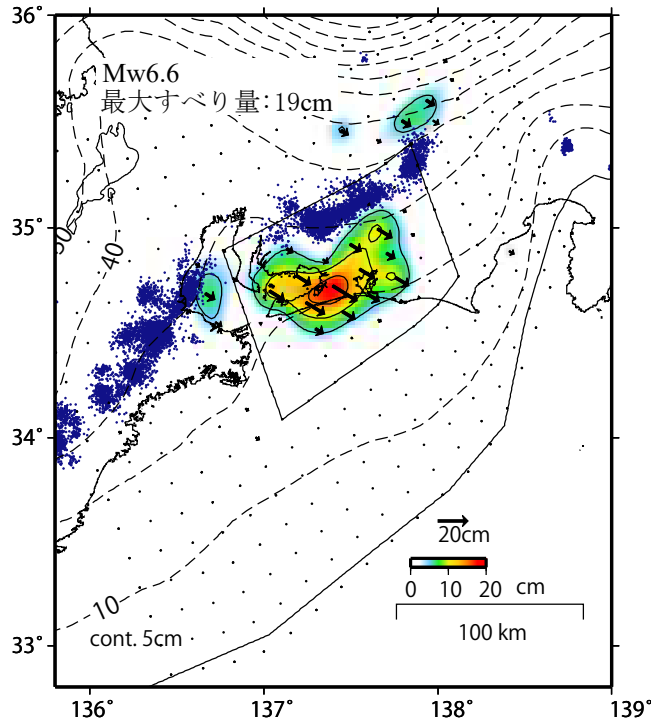
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)  
時間依存のインバージョン

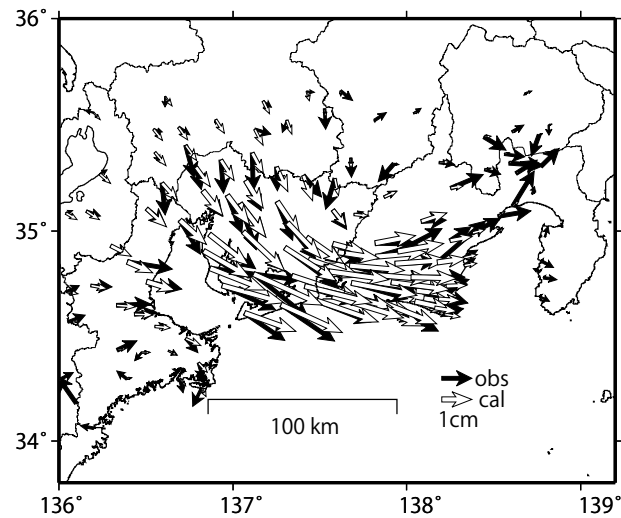


# GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり(暫定)

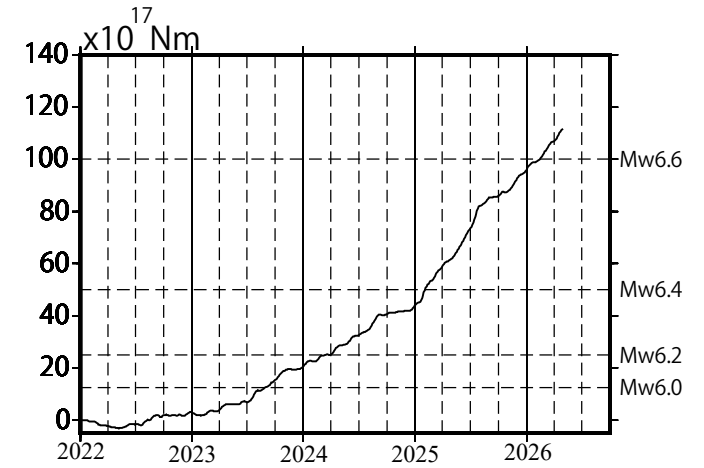
推定すべり分布  
(2022-01-01/2026-05-01)



観測値(黒)と計算値(白)の比較  
(2022-01-01/2026-05-01)



モーメント時系列(試算)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。  
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。  
推定したすべり量が標準偏差( $\sigma$ )の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ：GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)  
・F5.1解(2021-07-01/2026-04-11) + R5.1解(2026-04-12/2026-05-01)  
・トレンド期間：2020-01-01/2022-01-01(年周・半年周成分は補正していない)  
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側  
観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値  
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)  
すべり方向：プレートの沈み込み方向に拘束  
青丸：低周波地震(気象庁一元化震源)(期間：2022-01-01/2026-05-01)  
固定局：三隅

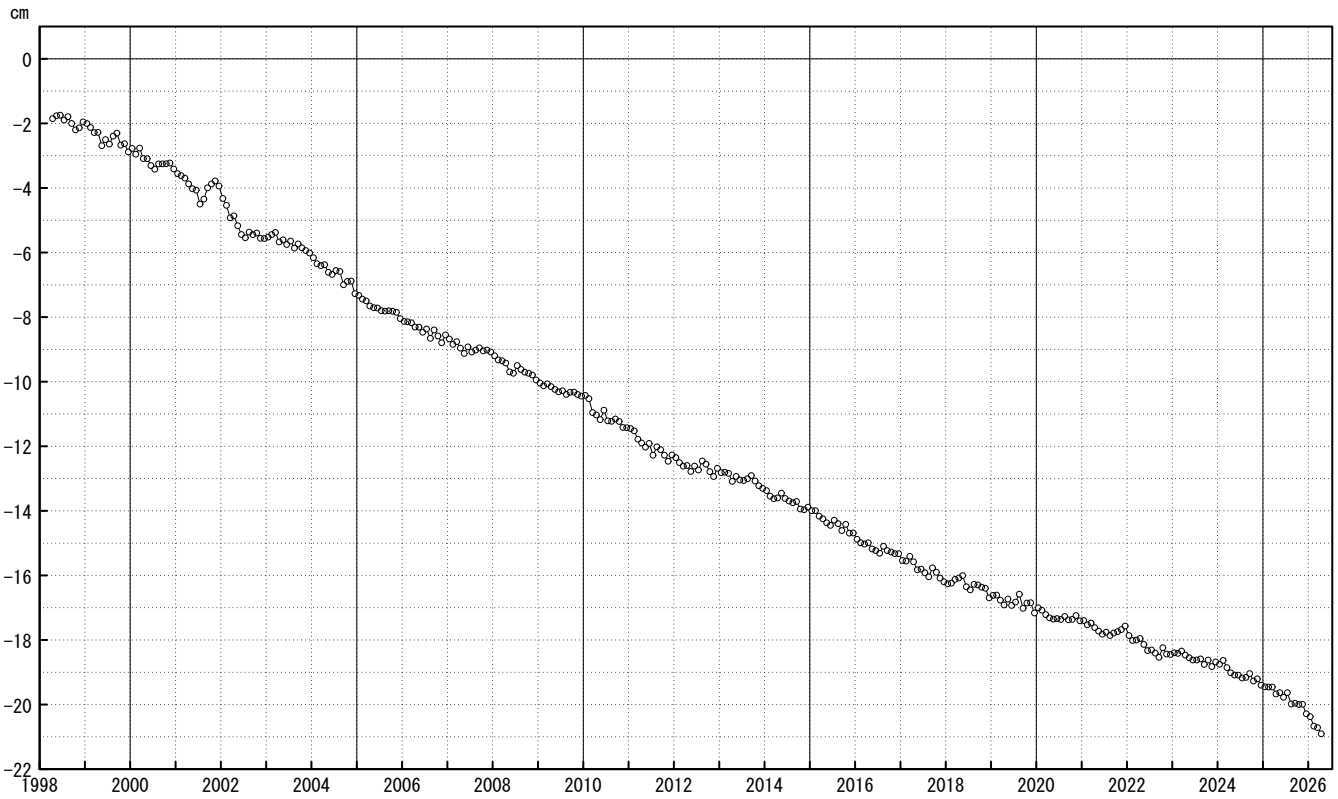
\*モーメント：断層運動のエネルギーの目安となる量。  
\*電子基準点の保守等による変動は補正している。  
\*気象庁カタログ(2017年以降)の短期的ゆっくりすべりを補正している。  
\*共通誤差成分を推定している。  
\*平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2017)。  
\*令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。  
\*令和6年能登半島地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2025)。

# 御前崎 電子基準点の上下変動

## 水準測量と GNSS 連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



○ : GNSS 連続観測 (GEONET 月平均値)

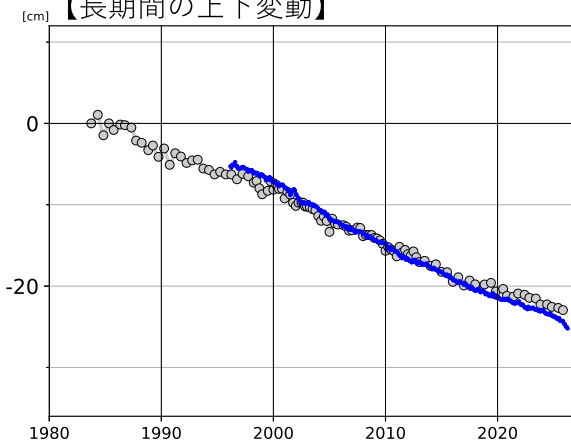
・ GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1 : 最終解) から計算した値の月平均値。最新のプロット点は 4 月 1 日~4 月 11 日の平均。

※ 1 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。

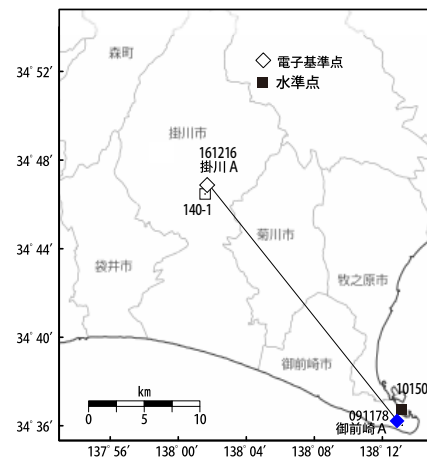
※ 2 電子基準点「御前崎 A」については、2010 年 3 月 23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用。

※ 3 電子基準点「掛川 A」については、2017 年 1 月 29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用。

【長期間の上下変動】



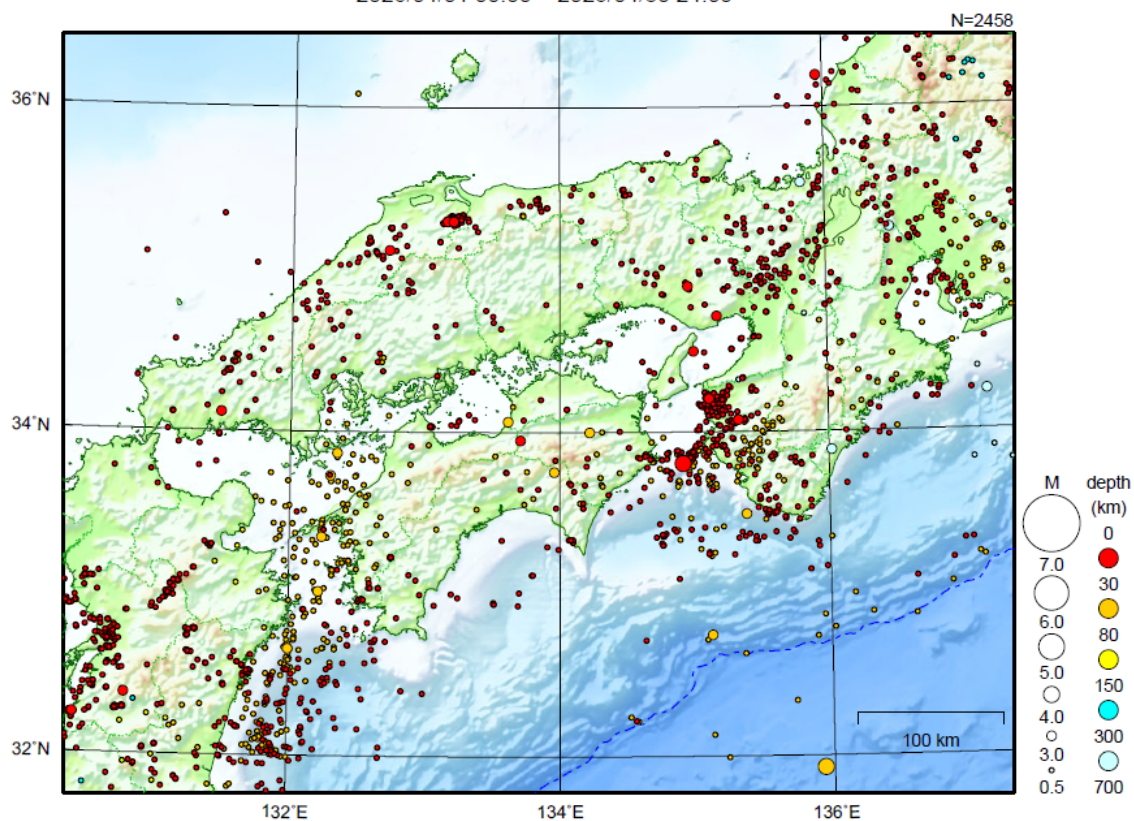
「固定局：掛川 A (161216)」



・ 青色のプロットは上記の GEONET による日々の座標値の月平均値。  
・ 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している (固定：140-1)。

# 近畿・中国・四国地方

2026/04/01 00:00 ~ 2026/04/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

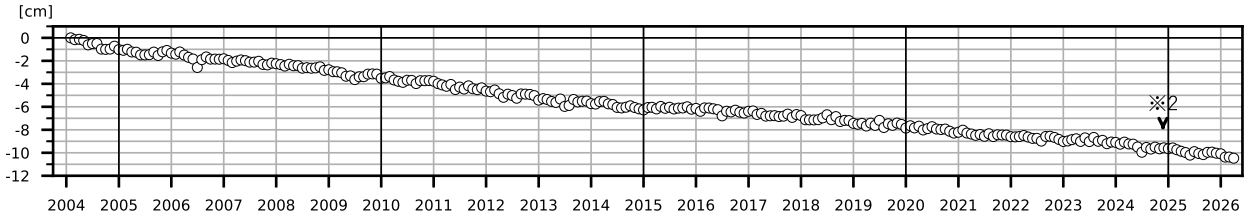
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

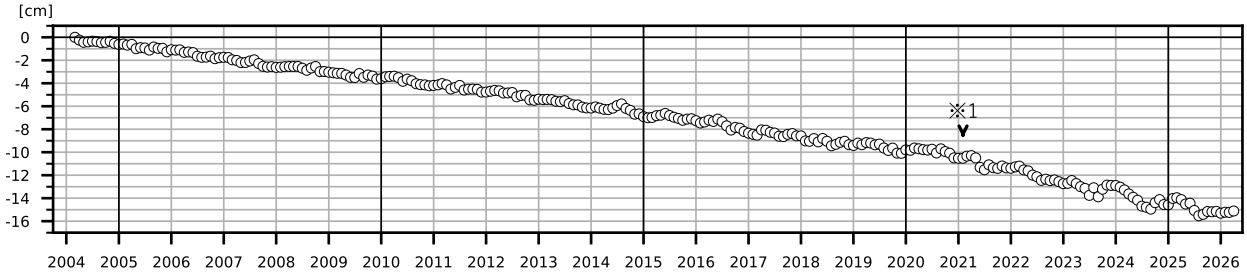
# 紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

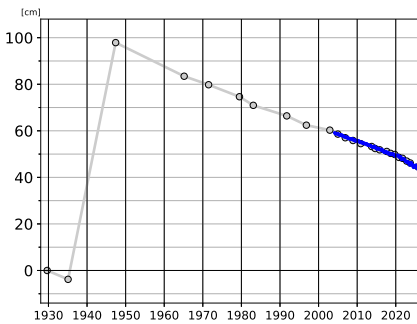
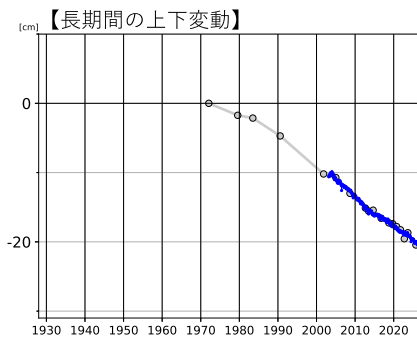
### 鵜殿 (950316) - P串本 (02P208)



### 安芸 (950442) - 室戸 4 (031122)



○ : GNSS 連続観測 (GEONET 月平均値)



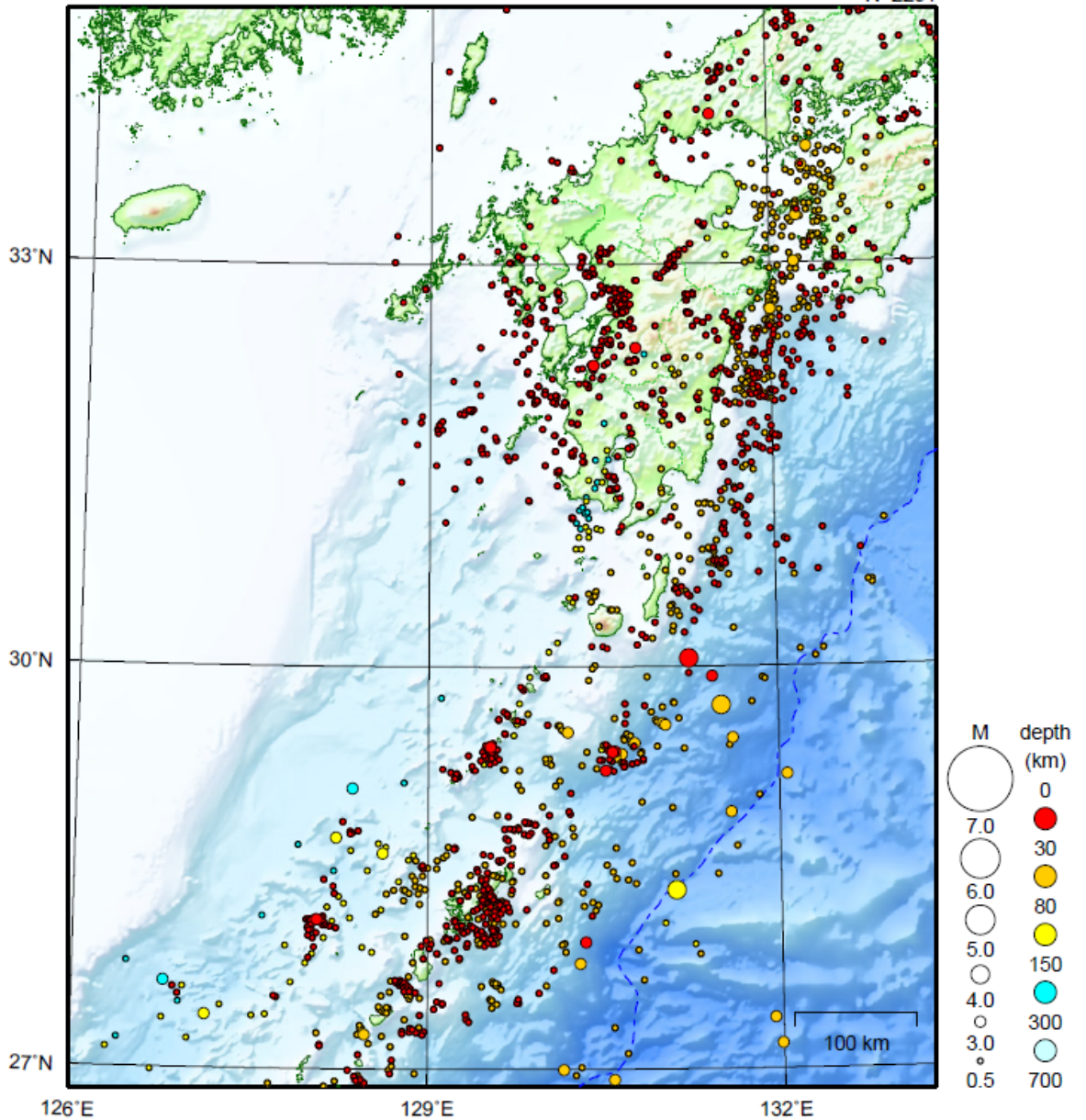
- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1 : 最終解) から計算した値の月平均値である。(最新のプロット点 : 4月1日~4月11日の平均値)
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している (固定 : J4810、5164)。

- ※ 1 2021年2月2日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。
- ※ 2 2024年11月25日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した。

# 九州地方

2026/04/01 00:00 ~ 2026/04/30 24:00

N=2291



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

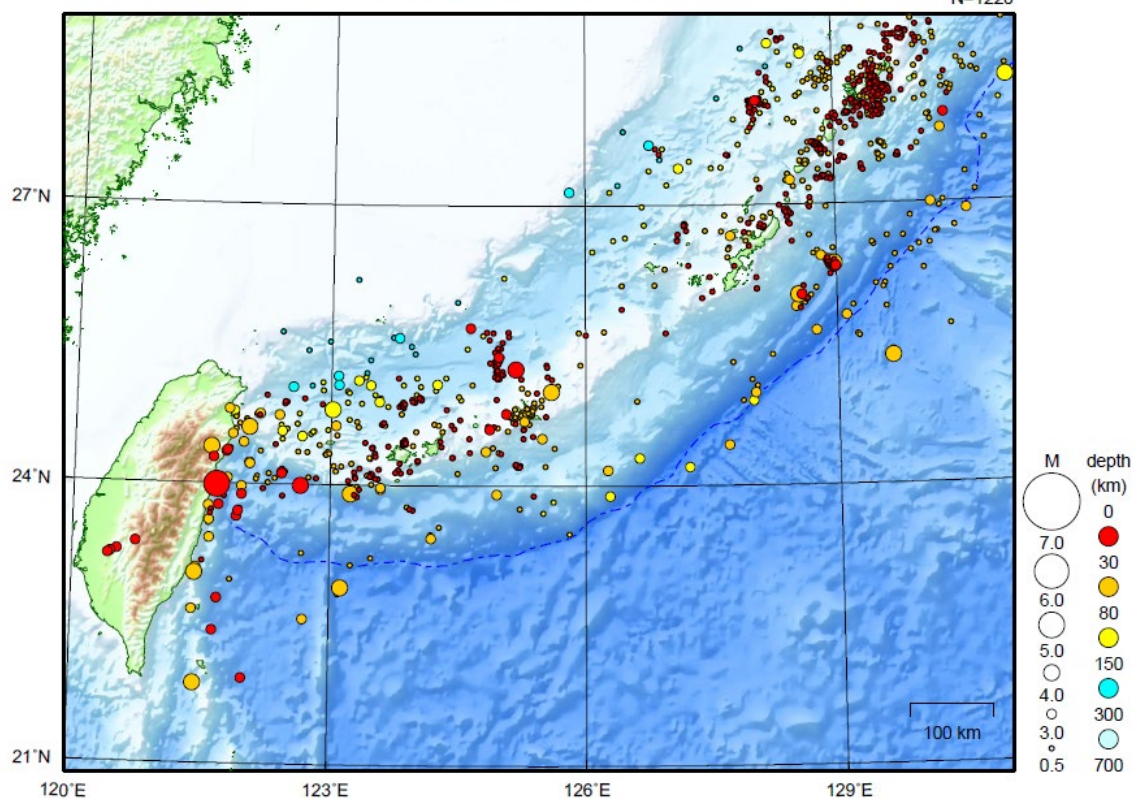
特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

# 沖縄地方

2026/04/01 00:00 ~ 2026/04/30 24:00

N=1220



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

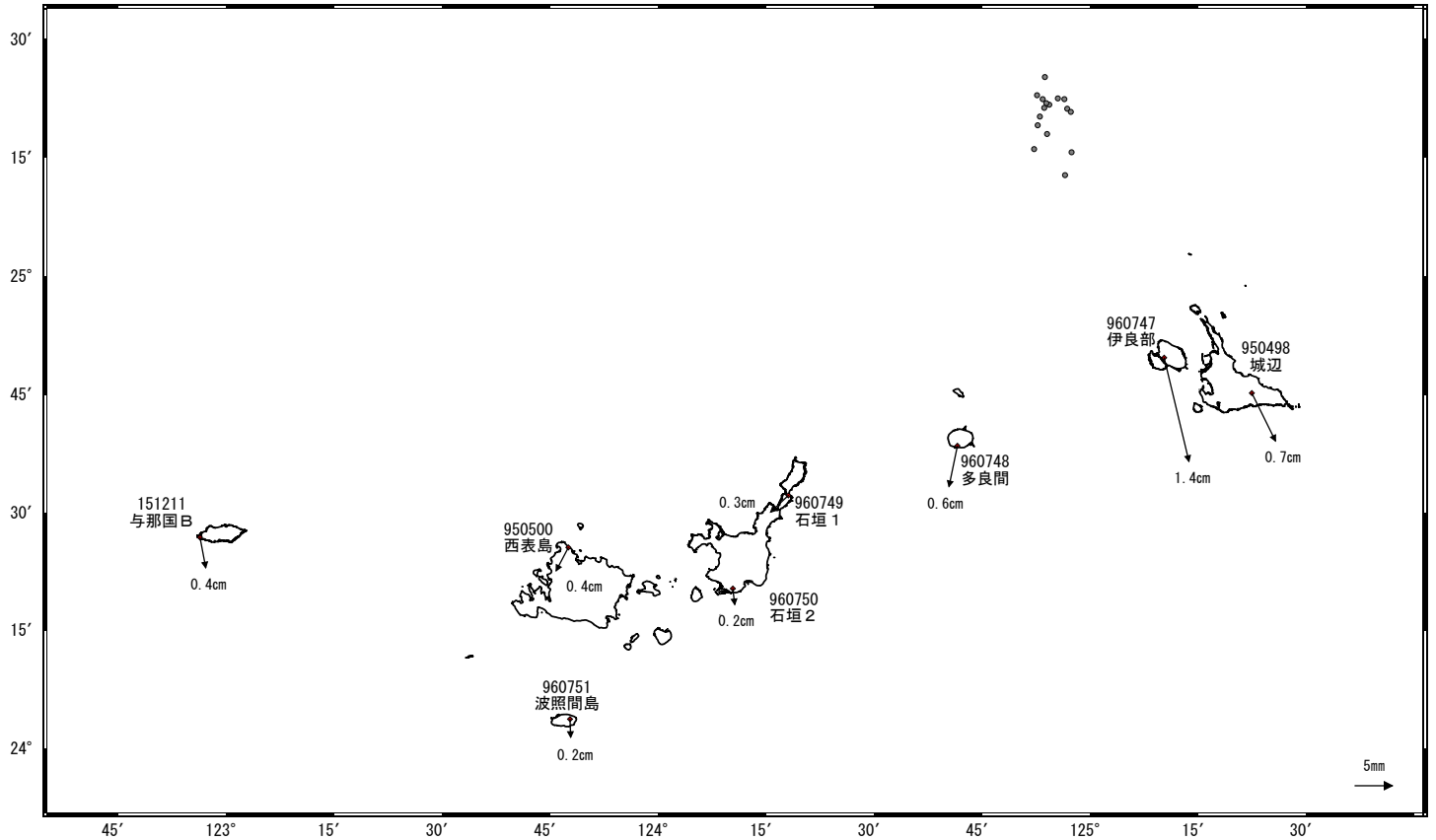
気象庁・文部科学省

# 宮古島北西沖の地震活動に伴う地殻変動(暫定)

一連の地震活動に伴い小さな地殻変動が観測された。

## 地殻変動(水平)

基準期間: 2026-02-19~2026-02-25 [F5. 1: 最終解]  
 比較期間: 2026-04-19~2026-04-21 [R5. 1: 速報解]



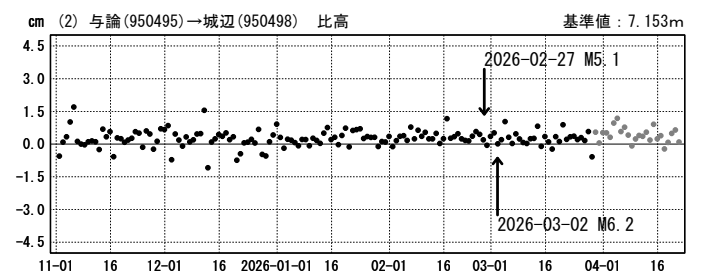
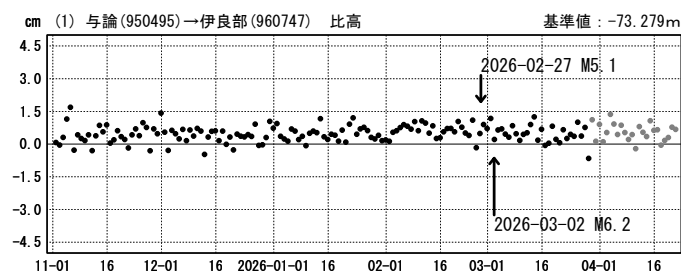
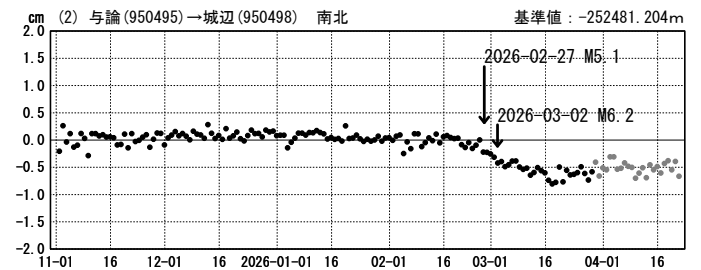
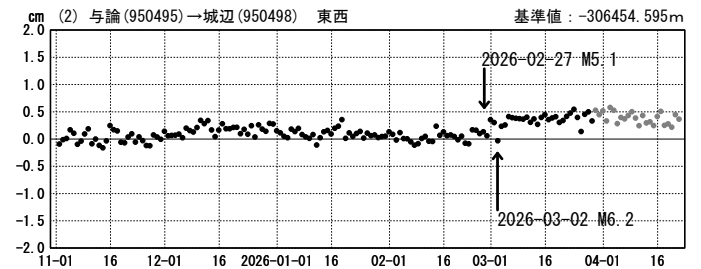
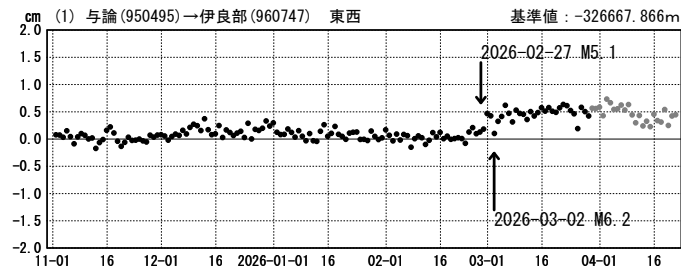
- 震央 (M5以上の地震)
- ☆ 固定局: 与論 (950495) (鹿児島県)

## 1次トレンド除去後グラフ

計算期間: 2023-01-01~2024-12-31

期間: 2025-11-01~2026-04-21 JST

期間: 2025-11-01~2026-04-21 JST



●— [F5. 1: 最終解] ●— [R5. 1: 速報解]

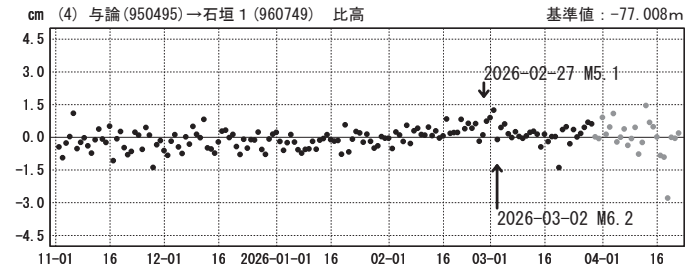
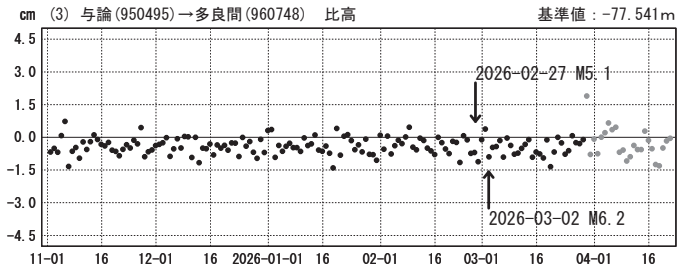
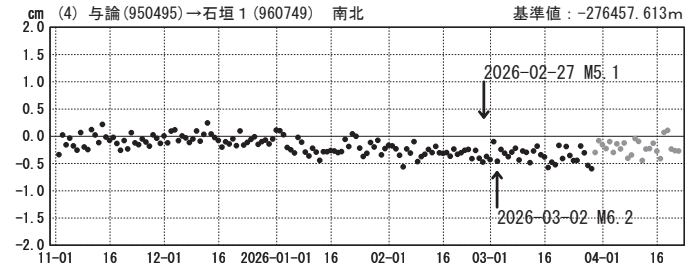
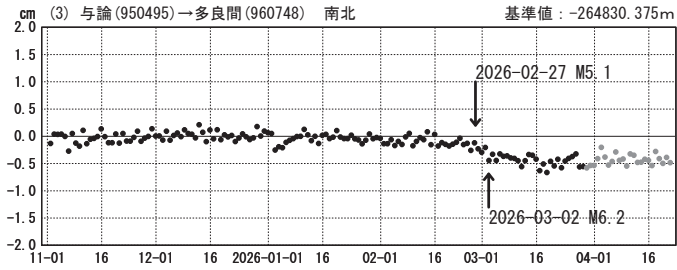
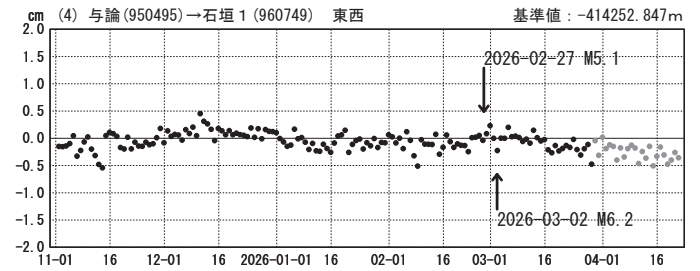
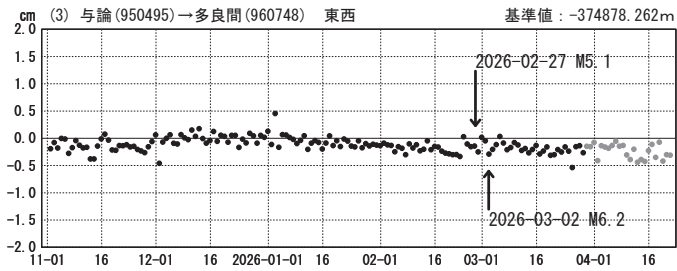
# 宮古島北西沖の地震活動に伴う地殻変動(暫定)

## 1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2023-01-01~2024-12-31

期間：2025-11-01~2026-04-21 JST

期間：2025-11-01~2026-04-21 JST



●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]